

株主の皆様へ

第116期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日



株主の皆様には、日頃より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第116期中間連結会計期間(2024年4月1日~2024年9月30日)における当社グループを取り巻く経営環境と事業活動の概況並びに今後の取り組みについてご報告させていただきます。



当中間連結会計期間の経済情勢

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、物価高による実質賃金の低迷で弱含んだ個人消費は徐々に下げ止まりの兆しがみえており、足元では緩やかながら持ち直しの動きがみられております。一方、中国経済の減速による輸出低迷懸念や物価高による消費低迷懸念などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。



当社グループの業績状況

当社グループの業績概況といたしましては、主として機能性材料部門の受注が好調に推移したことや価格転嫁を押し進めたことから増収となり、営業損益は黒字回復いたしました。

その結果、当社グループの経営成績は、売上高149億15百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益97百万円(前年同期は営業損失1億21百万円)、経常利益1億56百万円(前年同期比466.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益1億7百万円(前年同期は8百万円)となりました。

代表取締役社長 さくら だ たけ し 櫻田武志



今後の取り組みについて

軽包装部門につきましては、期首の計画に沿って電子レンジ対応食品包材「レンジD o !」を拡充し、非食品分野の化粧品、日用品、医療及び医薬包材にも高い技術力を活かした新製品の拡販に努めてまいります。また、プラスチック容器包装の廃棄によって生じる環境問題に対処するための取り組みも形になってきており、紙を主原料とする新たな包材の販売も始まりました。リサイクルが容易なモノマテリアル化といった、循環型社会の形成に寄与しうる製品の開発にも引き続き取り組んでまいります。

産業資材部門につきましては、厳しい市況が続いても利益が上げられるような体制作りを進めております。シノムラ化学工業株式会社とのシナジー効果の総仕上げに向け、現在は主に製造面の課題に集中的に取り組んでおり、最適解を導き出すべく議論中です。計画をまとめて実行に移し、通期の黒字化を果たすべく、スピーディな対応をもって収益改善を進めてまいります。

機能性材料部門につきましては、複数拠点に分散していた設備を集約し、効率の良い生産体制の構築と、コスト構造のスリム化を目指し改革を進めております。液晶テレビだけではなく様々なディスプレイが開発されておりますが、この変化の激しい市場におきましても、当社の強みである

高い技術力と細やかな営業力を活かし、顧客のニーズにスピード感をもって対応してまいります。



サステナビリティへの取り組み

当グループでは「サステナビリティ推進委員会」の方針と計画の下、関係部門が精力的に活動しております。環境面においては二酸化炭素排出量(燃料・電気)を数字で具体的に把握し、管理し、社内目標を立てて日々削減を進めております。第115期に導入いたしました太陽光パネル、CO₂フリー電気に加え、第116期も工場の省電力、省エネルギーに効果のある設備の導入を進めております。バイオマスプラスチックを使用した製品やモノマテリアル化といった環境保護をテーマとした研究開発にも積極的に取り組んでおります。サステナビリティを推進するためには、企業文化そのものの変革が必要であり、長期的な視点での人材育成が重要と考えております。従業員のキャリアパスやスキル開発のための投資を増やし、従業員のモチベーションのアップに繋がる施策の検討、人事制度の見直しなど、人材育成や確保にも、奮励努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年12月

中間 決算ハイライト

売上高

149億15百万円
(前年同期比 7.4%増)

経常利益

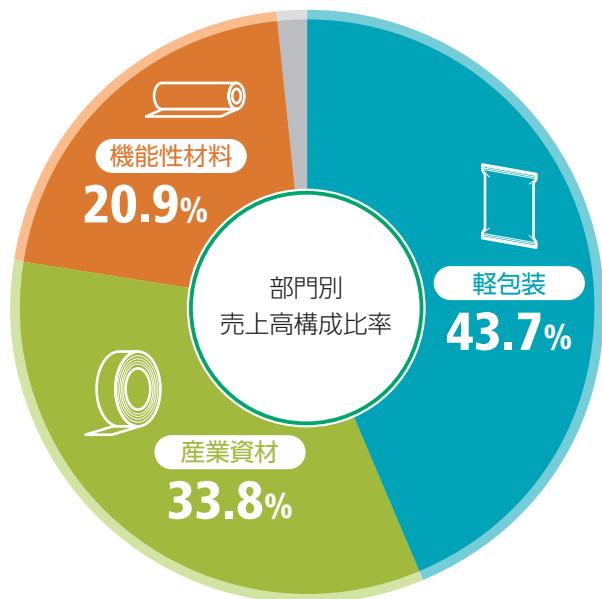
1億56百万円
(前年同期比 466.5%増)

営業利益

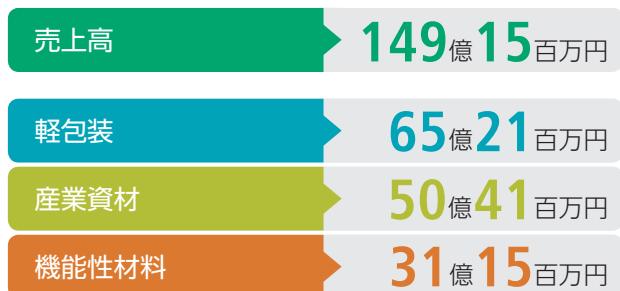
97百万円
(前年同期は営業損失1億21百万円)

親会社株主に帰属する
中間純利益

1億7百万円
(前年同期は8百万円)



■ 部門別売上高



軽包装



■ 事業内容

食品、医薬品、医療器具、日用品、電子部品、精密機器等の包装材料の製造・販売を行っています。市場ニーズを的確にとらえ、内容物に最も適したパッケージを供給するとともに、自然環境にやさしい包材の開発にも取り組んでいます。

■ 当中間連結会計期間の概況

食品用包材につきましては、電子レンジ対応食品用包材「レンジDo!」の受注が好調を維持。それ以外の食品用包材と医薬品・医療用包材につきましては概ね前年同期並みの受注量。売上高としては価格転嫁を進めたことから増収。

日用品等の包材は、耐内容物包材「プラピカ」の受注が順調に推移していることや、コロナ禍以降過剰在庫となっていたユーザーでの在庫消化が進み受注が回復したことから増収。

売上高の推移

(単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。



産業資材



■ 事業内容

粘着テープ・ラベル等の基材、剥離紙の製造・販売を行っています。近年は、粘着テープやラベルの用途が多様化・高度化しており、こうした要求に応え、長年にわたり培ってきたラミネート技術や離型剤塗工技術を駆使し、新製品開発を進めています。

■ 当中間連結会計期間の概況

紙・布へのラミネート製品につきましては、低調な荷動きと海外製テープの流入により減少していた粘着テープ用途としての需要が足元でやや回復の兆しをみせており、当社グループへの受注も回復傾向で推移し増収。

剥離紙は、自動車関連用途向け剥離紙の受注が堅調に推移したことで、電子部品用途向け剥離紙の受注が回復し増収。

売上高の推移

(単位:百万円)

■ 中間
■ 通期



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。



機能性材料



■ 事業内容

粘着塗工タイプ、2層押し出しタイプ、精密塗工タイプに分類される各種表面保護フィルムの製造・販売を行っています。フラットパネルディスプレイ向け偏光板や輝度向上フィルム等の光学用途から建材用途に至るまで、様々な部材を加工時・輸送時・保管時のキズ・ホコリ・汚染から保護します。

■ 当中間連結会計期間の概況

ディスプレイ関連部材の在庫消化が進み既存の光学用表面保護フィルムの受注が回復したことや、新たに電子部品用、自動車部品用の表面保護フィルムが採用になったことからオレフィン系粘着加工品及びその他の粘着加工品は増収。

売上高の推移

(単位:百万円)

■ 中間
■ 通期



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 前期末 2024年3月31日現在 | 当中間連結会計期間 2024年9月30日現在 |
|----------------|---------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 22,950 | 22,260 |
| 現金及び預金 | 7,317 | 5,651 |
| 売上債権 | 10,579 | 11,461 |
| 棚卸資産 | 4,840 | 4,796 |
| その他 | 212 | 350 |
| 固定資産 | 14,489 | 14,806 |
| 有形固定資産 | 6,723 | 7,005 |
| 無形固定資産 | 87 | 82 |
| 投資その他の資産 | 7,678 | 7,718 |
| 資産合計 | 37,440 | 37,067 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 12,696 | 12,642 |
| 仕入債務 | 6,919 | 6,576 |
| 短期借入金 | 3,690 | 3,670 |
| その他 | 2,086 | 2,395 |
| 固定負債 | 3,142 | 2,834 |
| 長期借入金 | 412 | 178 |
| その他 | 2,779 | 2,655 |
| 負債合計 | 15,838 | 15,477 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 17,808 | 17,835 |
| 資本金 | 2,176 | 2,176 |
| 資本剰余金 | 2,238 | 2,241 |
| 利益剰余金 | 13,714 | 13,726 |
| 自己株式 | △320 | △308 |
| その他 | 3,793 | 3,754 |
| 純資産合計 | 21,602 | 21,590 |
| 負債純資産合計 | 37,440 | 37,067 |

連結損益計算書

(単位:百万円)

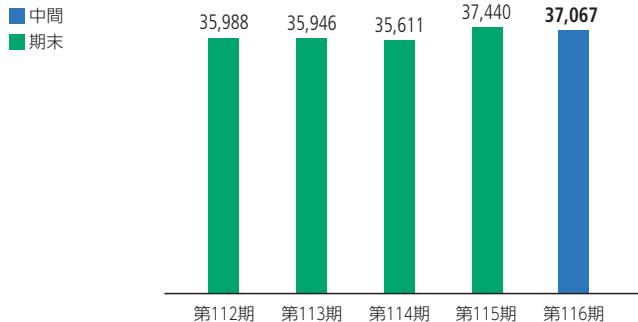
| 科目 | 前中間連結会計期間 2023年4月1日から 2023年9月30日まで | 当中間連結会計期間 2024年4月1日から 2024年9月30日まで |
|------------------------|--|--|
| 売上高 | 13,887 | 14,915 |
| 売上原価 | 12,495 | 13,168 |
| 売上総利益 | 1,391 | 1,747 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,513 | 1,649 |
| 営業利益(△は損失) | △121 | 97 |
| 営業外収益 | 165 | 127 |
| 営業外費用 | 16 | 68 |
| 経常利益 | 27 | 156 |
| 特別損失 | 3 | 33 |
| 税金等調整前中間純利益 | 24 | 122 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 35 | 39 |
| 法人税等調整額 | △22 | △19 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益(△は損失) | 3 | △3 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 8 | 107 |

連結キャッシュ・フロー計算書

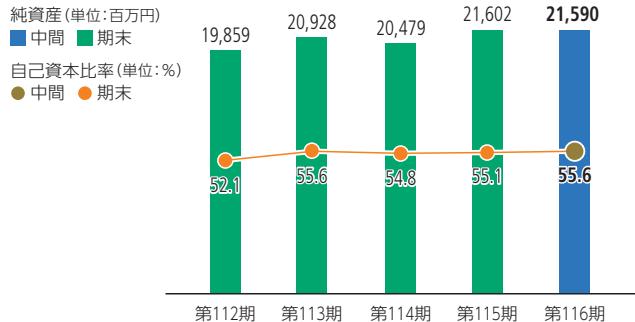
(単位:百万円)

| 科目 | 前中間連結会計期間 2023年4月1日から 2023年9月30日まで | 当中間連結会計期間 2024年4月1日から 2024年9月30日まで |
|---------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 729 | △1,087 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △211 | △185 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △402 | △373 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 6 | 6 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 122 | △1,639 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 6,148 | 7,233 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 6,270 | 5,594 |

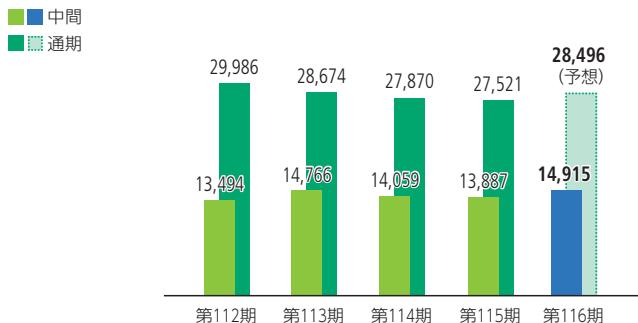
総資産



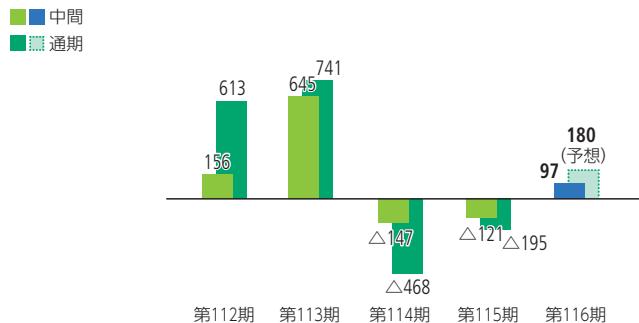
純資産 / 自己資本比率



売上高

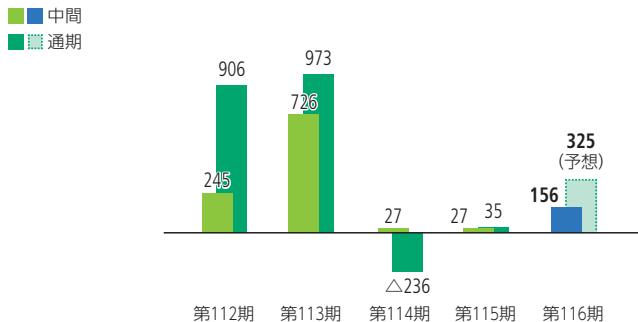


営業利益

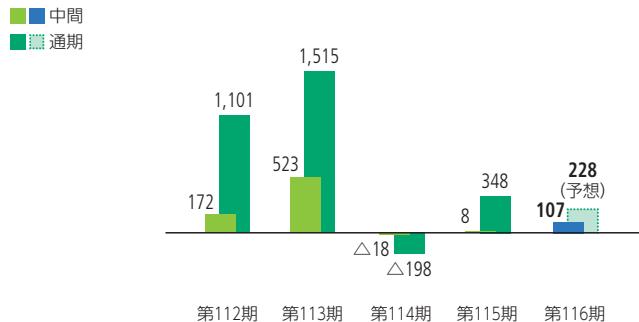


※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



特集 [第2回] サンエー化研の技術

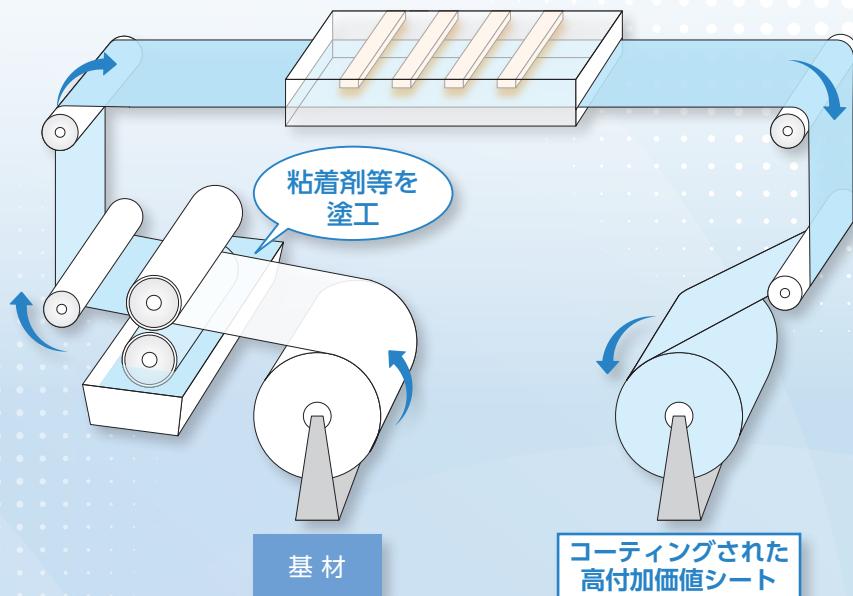
コーティング技術

■ コーティング技術とは

原紙、プラスチックフィルム、金属箔などの基材に離型剤、接着剤、帯電防止剤など液体状の原料を塗り、表面に薄い膜を形成させ新たな機能や価値を付与させる技術となります。

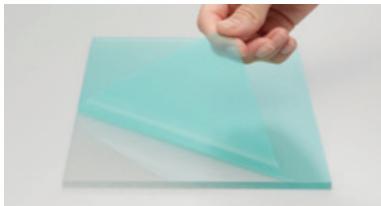
当社の製品としては、剥離紙、テープ基材、表面保護フィルムなどとなります。

■ コーティング加工例の概略



コーティング技術の活用例

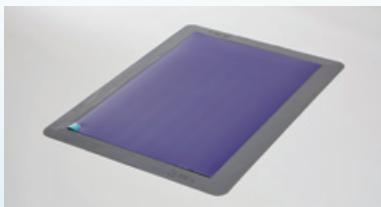
サニテクト



光学部材から建材用途にいたるまで、製造工程や輸送時・保管時のキズ・ホコリ・汚染から保護する表面保護フィルム。

当社独自のコーティング技術により、オプティカル分野やエレクトロニクス分野をはじめ、あらゆるニーズに合わせた提案が可能です。

ASマット



ポリエチレンフィルムに粘着機能と帯電防止機能を同時に付与した積層ごみ取りマット。

50枚の積層シートで構成され、汚れたら簡単に剥がして新たな粘着面にすることができ、クリーンルーム内へのホコリや異物の混入を防ぎます。

布テープ



粘着テープの定番製品である布テープ。当社独自のコーティング技術により、レーヨンをはじめ、ポリエステルや綿など、様々な織物に対して、テープ用基材としての加工が可能です。

zoom in

当社の製品と事業活動をより多くの方々に知っていただくため、第116期中間期も様々な展示会やイベントに参加しました。

「インターフェックス ジャパン －[医薬品][化粧品] 製造展」に出展



2024年6月26日(水)～6月28日(金)、東京ビッグサイトにて開催された第26回「インターフェックス ジャパン－[医薬品][化粧品]製造展」に双日プラネット株式会社様と共同で出展いたしました。当社は『プラピカ』を中心に出展いたしました。

耐内容物包材 「プラピカ」



従来の軟包装では対応できなかった「刺激の強い内容物」に高い耐性を持っており、特殊な接着層を使用することで層間剥離を抑制することも可能で、化粧品用の包材としても注目を集めています。

詳細はこちら▶



配当金について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、将来の事業展開と企業体質の強化に備えて必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

この方針の下、第116期(2025年3月期)の中間配当金につきましては、連結経営成績及び財政状況等を総合的に勘案し、1株当たり9円とすることをいたしました。

1株当たり配当金 (中間配当)

(単位:円)



※創立80周年の記念配当2.5円を含む。

IR カレンダー



株式の状況

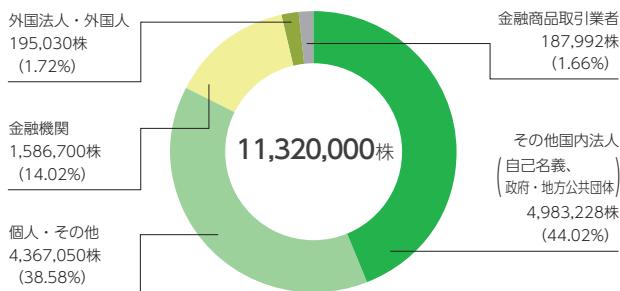
| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 45,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 11,320,000株 |
| 株主数 | 3,120名 |

大株主の状況

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|---|-----------|---------|
| | 持株数(株) | 持株比率(%) |
| 新生紙パルプ商事株式会社 | 1,812,200 | 17.14 |
| 昭和パックス株式会社 | 1,244,200 | 11.76 |
| サンエー化研社員持株会 | 424,300 | 4.01 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 310,000 | 2.93 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・昭和パックス株式会社口) | 300,000 | 2.83 |
| みずほ信託銀行株式会社 (退職給付信託 昭和パックス株式会社口) | 300,000 | 2.83 |
| 株式会社みずほ銀行 | 200,000 | 1.89 |
| 株式会社東洋化学 | 134,900 | 1.27 |
| 山田美千代 | 121,000 | 1.14 |
| 藤岡宣隆 | 106,300 | 1.00 |

1. 当社は、自己株式を747,293株保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は自己株式(747,293株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



会社概要

| | |
|--------|--|
| 商号 | 株式会社サンエー化研 |
| 本社所在地 | 東京都中央区日本橋本町1-7-4 |
| 事業所 | 関西支店、名古屋営業所、台北営業所 静岡工場、袋井工場、掛川工場、掛川工場WEST、 奈良工場 R&Dセンター |
| 設立 | 1942年9月 |
| 資本金 | 21億76百万円 |
| 従業員数 | 478名 |
| 主な事業内容 | 紙、プラスチック、金属箔等を主原材料とする 軽包装材料、剥離紙、粘着テープ基材、表面保護 フィルム等、包装材料関連製品の製造及び販売 |

連結子会社

| | |
|--------------|-----------------------|
| 東邦樹脂工業株式会社 | 本社・工場／栃木県下都賀郡野木町野木148 |
| シノムラ化学工業株式会社 | 本社・工場／静岡県袋井市国本291 |
| 灿櫻(上海)商貿有限公司 | 中国上海市長寧区虹橋路 |

役員

| | | | |
|---------|------|-------|-------|
| 代表取締役会長 | 山本明広 | 社外取締役 | 野口隆一 |
| 代表取締役社長 | 櫻田武志 | 社外取締役 | 宮本貞彦 |
| 取締役 | 芝彦尚 | 常勤監査役 | 佐藤誠一 |
| 取締役 | 山本元 | 社外監査役 | 井上眞樹夫 |
| | | 社外監査役 | 湯口毅 |

株主メモ

| | |
|------------------------|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
| 配当金受領株主確定日 | 3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当) |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 上場証券取引所 | 東証スタンダード市場 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う 公告掲載URL https://www.sun-a-kaken.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします) |

株式事務に関するお問い合わせ

- (1) 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等のお申出先について
証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。
証券会社に口座がないため特別口座に記録されている株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(兼株主名簿管理人)である、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
にお問い合わせください。
- (2) 払渡期間経過後のお取り扱い
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

ホームページのご案内

当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

当社ホームページの〈IR情報〉では、詳細な情報を掲載しております。

また新製品情報をはじめ、業務内容や最新の企業情報、展示会情報等についてもご覧いただけます。

URL▶<https://www.sun-a-kaken.co.jp>



株式会社 サンエー化研

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-7-4
TEL 03-3241-5701 FAX 03-3241-5719



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。